「自分の父親、そして天の父なる神様」

すでに5月の時点で30℃どころか35℃を越えた猛暑日の都市もあったようですので、6月はさらに暑くなるでしょうか。これから梅雨の時期を迎えますから、涼しい日も続くかもしれません。

じめじめした時期にもなりますので、日常生活の中でいろいろと工夫が必要になってきます。

6月は「父の日」があります。母の日と同様、キリスト教会で始まったと言われています。私も父親となり、しばらく経ちますが、果たしてどれだけ父親としての役割を果たしているかどうかを問われるならば、到底、立派な父親とは言えません。立派でなくても、与えられた一つ一つのことをしていくことができればと思います。振り返ると、もっと子どもたちが小さい時は、近くの公園や市内・県内にある公園、場所によっては遊具が比較的多くある公園、あまりない公園などいろいろ連れて行ったのが昨日のことのようです。ちなみに右上の写真は古いですが、約３年前に群馬に帰省した時、地元の小さな遊園地で写した写真です。まだ子どもたちも小さい頃でした。

今月は「父の日」があるということもあり、自分の父親について少しお証ししたいと思います。父は戦後のいわゆる団塊世代と言われる1948年（昭和23年）に生まれ育ちました。ちょうど同年齢の多い世代です。父は高校の土木科を卒業してから、就職しました。会社はいわゆる田舎の土木建設会社で、その会社の土木課や鉄道課で長年勤務しました。鉄道課では駅のホームの高架化工事の軌道関係、新線工事、踏切工事、また測量や設計、積算等が主な仕事でした。日勤だけでなく、電車が走っていない夜間にも線路の仕事をする必要があり、夜勤（夜間作業）として現場にも行っていました。たとえば一日のスケジュールとして朝7時に出勤し、夜7～8時に一旦帰宅します。そして夕食をとって、少し横になって休んでから、また夜の10時くらいに家を出発し、現場に行って仕事をし、朝方のだいたい4時、5時に帰宅し、床に就き、またその日の朝7時には会社に出かけるということを週に何回か繰り返すことを長年してきました。このタイムスケジュールを考えただけでも、体が相当、丈夫でないとやっていけませんし、無理をしたら体を壊すことになります。今は、労働基準法が厳しい時代です。結局、体を壊すことになり、それでも40年ほど、いわゆる「企業戦士」「仕事人間」として働いてきました。家では「あまり怒らない、おおらかな人」、外では「だれにでも、知らない人にも気軽に話しかける人」というのが、私が父に対して持っている印象です。そのような父親は長年教会には通っていましたが、なかなかイエスさまを救い主として信じませんでした。ある日、あることが原因で意識不明になり救急車で運ばれ、緊急入院しました。一命はとりとめて、気がついた時には病院のベッドにいることが分かりました。幸い、数日後に退院することができ、数年後の55歳の時に、教会で洗礼を受け、現在、教会生活を送っています。直接話を聞くと、小学生の12歳くらいの時に同級生の友人と一緒に、3ヶ月くらいですが、教会学校（CS）と礼拝に出席していた時期があったそうです。小さい時に教会に通っていたという経験が、その後、40年以上を経て実を結ぶこととなりました。このことはとても大きな出来事です。

さて、聖書にご自身を表してくださった神様は天地万物の造り主であり、すべてのものを支配し、保持しておられます。神様は「天の父」あるいは「天のお父様」と呼ばれる存在であり、神の御子である救い主であるイエスさまをこの世界に遣わしてくださいました。もともと乳幼児や小さな子どもが呼びかける時に用いたのが「アバ」であり、本来「お父ちゃん」という意味があるそうです。聖書の中のガラテヤ人への手紙４章６節には**「そして、あなたがたが子であるので、神は『アバ、父よ』と呼ぶ御子の御霊を、私たちの心に遣わされました。」**と書かれています。つまり神様の立場から見るならば、罪を悔い改め、イエスさまを救い主として信じる者たちは「神の子ども」とされ、イエスさまを救い主として信じる者たちから見るならば、神様は「お父さん」「お父ちゃん」なのです。つまりイエスさまを罪からの救い主として信じることによって、神様のとの関係が回復し、また確立し、そのような素晴らしい立場が与えられます。

そのような信仰、またそのような告白に導いてくださるのも、神の霊である御霊です。今から約2000年前に、エルサレムに集まっていた人たちに、御霊（聖霊）が下り、教会が誕生しました。それがペンテコステと言われる出来事です。毎年、日が違いますが今年の暦ではペンテコステは6月5日であり、聖霊が下られたことを記念して、国分寺キリスト教会ではペンテコステ記念礼拝をささげました。

皆さんは神様に対してどのようなイメージを持っておられるでしょうか。何かとても厳しく、すぐに罪を断罪するような怖い神様でしょうか。あるいは遠い遥かかなたにおられ、なんとなく漠然としていて、あまり把握できないお方でしょうか。それともいつも共におられ、親しく臨んでくださるお方でしょうか。聖書にご自身を明らかにしてくださった神様を知るならば、根本的な生き方が変えられ、聖書の素晴らしい約束のうちを、希望をもって生活していくことができるのです。6月も皆さんの日々の生活と健康が神様によって支えられますように。病める方々、困難な中にある方々の上には、神様からの平安と慰めが豊かにありますように、お祈りいたします。

国分寺キリス教会　牧師　　原　一　　2022年6月